

第2回 北斗市観光振興プラン策定委員会

と き 令和6年 1月15日(月)

午後1時00分～

場 所 本庁舎 大会議室

1 開 会

2 議 事

(1) 北斗市観光振興プラン市民検討会議の結果について

(2) 北斗市観光振興プランⅢの「観光の柱」について

(3) 北斗市観光振興プランⅢの取り組みについて

(4) 観光エリアについて

(5) その他

3 閉 会

1 北斗市観光振興プラン市民検討会議の結果について

(1) 第1回北斗市観光振興プラン市民検討会議の結果について

令和5年11月15日に七重浜住民センター第1会議室において、第1回北斗市観光振興プラン市民検討会議を開催した。結果については以下のとおり。

ア 委員長及び職務代理の選任について

委員長については、委員から決定方法について事務局案との意見があり、事務局案により選出。また、職務代理については委員長からの指名により選出された。

委員長：奥平 理 委員（北海道教育大学函館校 准教授）

職務代理：出口 弘幸 委員（北斗市商工会 事務局長）

イ 北斗市観光振興プランⅡの進捗状況及び評価について

現在の計画についての取組状況や事務局からの評価状況について、事務局より説明。市民検討会議では、内容を確認のうえ、意見を頂戴した。

ウ 北斗市観光振興プランⅢ（仮称）の策定について

新たに策定する観光振興プラン策定までの流れ、計画の基本方針や変更のポイント、構成等について事務局より説明。市民検討会議では了承することができ、次期計画への意見等をいただいた。

(2) 第1回北斗市観光振興プラン市民検討会議の意見について

既存計画である、北斗市観光振興プランの進捗状況及び評価について、また北斗市観光振興プランⅢ（仮称）の策定に関する各委員からの意見については以下のとおりとなった。

各委員からの意見について

奥平委員長：JR北海道のkitacaが使えるようになるとビックデータが利用できる可能性あり。函館バスでは、すでに利用可能。

奥平委員長：函館市では、計画に成果指標を設けている。

佐々木委員：北斗市はなんでも広くやりすぎ。切るものは切ってもよいのでは。

稲村委員：周辺市町をつなぎ、道南をつなぐ取り組みも必要。

東寺委員：高齢者のことを考え、二次交通を切られては困る。残してほしい。

稲村委員：ワインは観光資源となるが、出来上がるまでに時間がかかる。

東田委員：環境にも優しい内容を取り入れてほしい。

東田委員：宿泊を増やすのであれば、朝と夜についての取り組みを考えなければならない。（ナイトタイムエコノミーなどの取り組み）

奥平委員長：コロナ禍でプロモーションは難しかった。これから知名度下がらないよう実施する必要がある。

小柏委員：周辺市町への観光客を北斗市に降ろす仕組みを検討する必要がある。

小柏委員：ニセコ方面のインバウンドについては、ニセコより長万部駅で乗り換え、新函館北斗駅から本州へ行っている現状もある。

吉田委員：北斗市の観光情報を提供したくてもできない。函館や大沼方面を案内することが多い状況。観光協会を用意している商品は事前予約が必要。当日でも提供できるサービスがない。

西谷委員：夏に大学生に来てもらい、各種体験しながら給料を得るなどの取り組みを考えてほしい。現状、パートが集まらず困っている農家もいる。

奥平委員長：農業体験は潜在的な希望者が多い。

稲村委員：新函館北斗駅から降りてくる人からは駅前に何も無いという声を聴く。駅前の地域活性化は必要。

2 北斗市観光振興プランⅢの「観光の柱」について

(1) これまでの観光振興プラン観光の柱について

平成23年度に策定された「北斗市観光振興プラン」は、北海道新幹線開業を見据え、平成24年度を「観光振興元年」と位置付け、「きじひき高原の整備活用」、「桜回廊事業の推進」、「体験型観光の振興」及び「スポーツ合宿の誘致」の4本柱を中心とし、平成24年度から平成30年度まで取り組みを行った。

その後、平成31年度に策定された「北斗市観光振興プランⅡ」では、「トラピスト修道院の景観活用」を加え、平成31年度から令和5年度までの5年間で取り組んでいる。

なお、観光振興プランで掲げられている観光の柱の現状については、観光施策の取り組みにより、以下のとおりとなっている。

・「きじひき高原の整備活用」について

平成26年にきじひき高原パノラマ展望台周辺の整備を行い、ハード面については一定の整備が進んでおり、平成28年にはパノラマ展望台の利用者数が10万人を超えたが、近年は新型コロナウイルスの影響などで5万人前後となっている。

・「桜回廊事業の推進」について

法亀寺のしだれ桜や松前藩戸切地陣屋跡、大野川沿い桜並木など周遊できる取り組みが一定程度行われており、地元住民だけではなく多くの観光客による来訪があるが、市内での消費活動が課題である。

・「体験型観光の振興」について

体験型観光の振興については、体験農園等の協力により取り組んでいるところである。令和2年度から着地型担い手事業に取り組み、令和5年度より北斗市観光協会より体験型観光を含む着地型観光商品販売を開始しており、メニューの開発を進めている。

・「スポーツ合宿の誘致」について

交流人口の増加を図るため、年間5,000泊を目標としてきたところである。この目標宿泊数については、令和4年度に63団体がスポーツ合宿の制度を利用し、宿泊数は5,358泊となり目標数を越えている。

・「トラピスト修道院の景観活用」について

当市の観光ポスターなどに活用され、12月に実施する北斗光回廊では並木道をライトアップやフォトコンテストを実施するなど現段階においても観光に関する取り組みが行われている。

(2) 新たな観光の柱案について

当市の観光振興プランで掲げられていた観光の柱については、観光に係る情勢や環境変化を踏まえ、見直しが必要と考えられる。ついては、これまでも重要と掲げてきた内容やこれから必要となると見込まれる内容を考慮し、事務局では以下の柱案を検討した。

ア きじひき高原への誘客強化

これまでは一定のハード整備が進んだことから、当市を代表する観光施設における次のステップとして、夜景や星空観賞などの観光資源利用を含めたモデルルート開発やソフト面における取り組みを強化し、さらなるきじひき高原への誘客の推進を柱とする。

イ 北斗回廊事業の推進

北斗桜回廊のほか、北斗紅葉回廊や北斗光回廊に取り組んでいることから季節ごとに一年を通して誘客できる取り組みとして回廊事業を展開して市内の観光周遊を促し、消費活動の増加を推進する。
(春：北斗桜回廊（法亀寺、大野川沿い、戸切地陣屋、清川千本桜）、秋：北斗紅葉回廊（八郎沼公園）、冬：北斗光回廊（新函館北斗駅前、トラピスト通り並木道）)

ウ 着地型観光の充実

着地型観光については、令和2年度より着地型担い手事業に取り組み、令和5年度より北斗市観光協会より観光商品販売を開始しており、体験などを含めたメニューの開発に注力している。これまでの観光振興プランでは「体験型観光の推進」が柱となっていたが、体験型観光だけではなく、北斗市の自然や歴史、文化などの観光に触れてもらうため、新たな観光振興プランでは着地型観光の充実を柱とする。

エ スポーツ合宿誘致

これまでににおいても「スポーツ合宿誘致」を柱としことから、次のステップとして年間5,000泊を維持しつつ、トップチームや実業団、強豪校などさらなる地元への経済効果が高まる団体への誘致を強化し、トップアスリートによるスポーツ教室の開催などスポーツ振興においても強化を図るための柱とする。

オ トラピスト修道院の景観活用

北斗市を代表する観光地の一つであるトラピスト修道院は、全国的に知名度も高く重要な観光資源であることから並木道から正門へ続く景観や季節によって表情を変える周辺景色の活用を柱とする。

カ 新函館北斗駅周辺の機能強化

平成28年3月に北海道新幹線が開業し、令和3年度より観光交流センターの活性化に本格的に取り組み、賑わい創出のため駅周辺でのイベント開催などに取り組んできた。北海道新幹線延伸を見据え、さらなる賑わい創出を進めることで、駅周辺に観光客や地元住民による滞留が生まれ、駅周辺への事業者進出など機能強化を柱とする。

キ 食とワインの活用

農業、漁業が盛んであることからこれまでも地場産品の活用については取り組まれてきたところである。加えて気候や土壌などの条件から近年、三ツ石地区や向野、文月地区においてワイン醸造用ぶどうの栽培やワイナリー建築などワイン生産に関する動きが活発化しており、ワインを核として地域活性化の取り組みを推進するための「ワインを核とした地域活性化ビジョン2023」も策定されている。このことから、地場消費を推進するため、食とワインの活用を柱とする。

3 北斗市観光振興プランⅢの取り組みについて

(1) 観光振興プラン観光の基本方針について

基本方針については、北斗市総合計画にも掲載されており、これまでの観光振興プランにおいても基本方針として位置づけられてきた以下の内容を継承する。

基本方針

1. 観光資源の充実及び周遊観光の推進
2. 誘致宣伝の強化
3. 観光客受入体制の充実
4. 多様な交流の推進
5. 広域観光の推進

(2) 具体的な取り組みについて

観光の柱と同様、これまでの観光振興プランに記載されている取り組みについては、観光施策の取り組みにより成し遂げられているものもあり、また観光に係る情勢や環境変化を踏まえ、見直しが必要と考えられる。ついては、以下に記載する各会議で得られた意見を踏まえ、事務局ではこれまでも重要と掲げてきた内容やこれから必要となると見込まれる内容を考慮し、基本方針ごとに各取り組み案を検討した。

策定委員会及び市民検討会議での主な意見について

・食関係

- ① 観光や食に関する取り組みについて様々な媒体で触れ、情報発信が必要（策定委員会）
- ② ワイン関連や食に関する内容の検討（策定委員会）
- ③ ワインに関しては観光資源となる。（市民検討会議）

・体験型関係

- ④ インバウンドは収穫体験やそば打ち体験などに興味があるのでは。（策定委員会）
- ⑤ 宿泊など滞在時間を延ばすためには、朝や夜に関する取り組みが有効（市民検討会議）
- ⑥ 即日対応できる北斗市の観光メニューや情報の提供について（市民検討会議）
- ⑦ 農業体験は潜在的な希望者が多い（市民検討会議）

・新函館北斗駅周辺関係

- ⑧ 新函館北斗駅交通機能の拠点。レンタカーなど取り組むべき（策定委員会）
- ⑨ 新函館北斗駅周辺の賑わいも重要な観光振興（策定委員会）
- ⑩ 新函館北斗駅周辺の地域活性化は必要（市民検討会議）

・新幹線・交通関係

- ⑪ 北海道新幹線延伸を見据えた取り組みの準備（策定委員会）
- ⑫ ニセコ方面のインバウンドについては、新函館北斗駅から本州へ行っている（市民検討会議）
- ⑬ 二次交通については残してほしい（市民検討会議）

・デジタル関係

- ⑭ 観光DXに関する取り組みの検討（策定委員会）
- ⑮ 観光関連データのオープン化（策定委員会）
- ⑯ 交通系などビックデータが利用できる可能性がある（市民検討会議）

・その他

- ⑰ 観光資源等のゾーン分けからの展開（策定委員会）
- ⑱ 知名度が下がらないよう引き続きプロモーションを実施する必要がある（市民検討会議）
- ⑲ 周辺市町をつなぎ、道南をつなぐ取り組みも必要（市民検討会議）
- ⑳ 環境にやさしい内容の取入れ（市民検討会議）
- ㉑ 観光客を北斗市に降ろす仕組みを検討する必要がある（市民検討会議）

1 観光資源の充実及び周遊観光の推進

観光振興プランⅡの取り組み

ア 観光資源の発掘・磨き上げ

- 観光資源の発掘と活用
地域の優れた自然環境や景観、文化、歴史的遺産など観光資源の掘り起こしと、観光資源の活用検討
- 文化・歴史的遺産などのテーマ
別観光メニューの発掘と活用。箱館戦争や三木露風、縄文文化など文化・歴史をテーマにした観光周遊ルートの創出
- 秋冬観光の開発・促進
秋冬の観光客誘致を図るための観光メニューの開発・促進

イ 周遊観光の充実

- 域内周遊の促進を図る観光メニューの充実
通年で市内観光地や観光関連施設等への回遊を促す観光メニューの推進
- 周遊チケット等の充実
はこだて旅するパスポート事業といった周遊チケットの充実、継続的販売
- 観光資源を活用したモデルコースづくり
観光地と地場産品を活用した料理、特産品を提供する店舗を組み入れた多彩な観光コースの創出

ウ 各種イベントの観光資源化

- 回廊事業の充実
北斗桜回廊、北斗紅葉回廊、北斗光回廊の充実
- 北斗の魅力を生かしたイベント開催の支援
北斗市夏まつり、北斗市茂辺地さけまつりなど、地域主体で北斗市の魅力を生かしたイベントの支援
- 北斗市観光交流センターを拠点としたイベント開催の促進
北斗市観光交流センターを拠点とし、市内事業者が主体となったイベントの促進

見直しの考え方について

各会議で得られた以下の意見を参考に、観光スポットや新鮮な農海産物を使ったグルメや市内で取組まれているワイン醸造用ぶどうの生産及びワイナリーの稼働を活用した体験など魅力あふれる観光資源を活用、市内に点在する観光エリアを周遊してもらうことで市内観光における滞在時間の長時間化及び飲食店などの利用や宿泊による観光消費の増加につなげる取り組みを推進する。

～食関係～

- 観光や食に関する取り組みについて様々な媒体で触れ、情報発信が必要（策定委員会）
- ワイン関連や食に関する内容の検討（策定委員会）
- ワインに関しては観光資源となる。（市民検討会議）

～体験型関係～

- 宿泊など滞在時間を延ばすためには、朝や夜に関しての取り組みが有効（市民検討会議）
- 即日対応できる北斗市の観光メニューや情報の提供について（市民検討会議）

～新函館北斗駅周辺関係～

- 新函館北斗駅交通機能の拠点。レンタカーなど取り組むべき（策定委員会）
- 新函館北斗駅周辺の賑わいも重要な観光振興（策定委員会）
- 新函館北斗駅周辺の地域活性は必要（市民検討会議）

～その他～

- 観光資源等のゾーン分けからの展開（策定委員会）

観光振興プランⅢの取り組み案

（１）観光資源を活用した新たな挑戦・・・①②③

新鮮な農産物や海産物などの地場産品を使ったグルメを推進し、提供店舗や販売施設の紹介
市内のワイン醸造用ブドウ畑見学や収穫体験など新たな観光資源化（ワインツーリズム）

（２）エリアを活用した市内周遊の推進・・・⑤⑥⑧⑨⑩⑰

きじひき高原やトラピスト修道院、松前藩戸切地陣屋跡などの景観、文化、歴史的遺産を活用した周遊を促す観光ルートの開発・推進

新函館北斗駅を起点とし、レンタカーやタクシー、レンタサイクルなどを活用したモデルルートの開発・推進による市内周遊観光の推進

宿泊を促し、滞在時間を延ばすため、イルミネーションやライトアップイベント、夜景、星空観賞などのナイトタイムエコノミーの開発・推進

（３）イベントの観光資源化・・・⑤⑨⑩⑰

北斗桜回廊、北斗紅葉回廊、北斗光回廊など北斗の四季を活用した回廊事業の充実

北斗市夏まつり、北斗市茂辺地さけまつりなど、地域主体で北斗市の魅力を生かしたイベントの支援

新函館北斗駅周辺に賑わいをもたらすためのイベントの支援・促進

2 誘致宣伝の強化

観光振興プランⅡの取り組み

ア 各種媒体を活用した情報発信

- ・個人旅行者に対する情報提供ツールの充実
旅行者の視点に立った観光パンフレットやリーフレット、ポスターの作成
- ・放送媒体・紙媒体を通じた情報発信
テレビやラジオ、新聞、雑誌といった各種媒体を通じての情報発信の充実
- ・ホームページやSNS、各種メディアを活用した効果的な情報発信
市・観光協会のホームページやSNSの運用など電子媒体による情報発信の充実

イ 優位性を活かした効果的な宣伝誘致活動の推進

- ・主要都市における宣伝誘致キャンペーンの推進
北海道新幹線をはじめ、陸、海、空の交通アクセスの利便性や豊かな資源を生かした誘客促進
- ・旅行代理店などへの宣伝誘致活動の推進
旅行代理店や交通事業者、各種スポーツ団体などへの効果的な宣伝誘致活動の推進

見直しの考え方について

各会議で得られた以下の意見を参考に、当市の観光情報をリアルタイムに多くの方に届けるため、簡単に情報を発信及び取得できるツールとしてSNSなどを活用するとともに、各地でのイベントやキャンペーンなどでプロモーションを実施する取り組みの実施とともに北海道新幹線延伸を見据え道央方面やニセコエリアより本州方面へ移動するインバウンドに対する誘致促進などの宣伝活動を効果的に実施する。

誘致するための観光客の動向把握や観光ニーズを的確にとらえるための調査、及び調査によって得られたデータを市内の観光事業者等に活用してもらうためオープンデータとして公表する取り組みを進める。

～食関係～

- ① 観光や食に関する取り組みについて様々な媒体で触れ、情報発信が必要（策定委員会）

～新幹線・交通関係～

- ⑪ 北海道新幹線延伸を見据えた取り組みの準備（策定委員会）
- ⑫ ニセコ方面のインバウンドについては、新函館北斗駅から本州へ行っている（市民検討会議）

～デジタル関係～

- ⑮ 観光関連データのオープン化（策定委員会）
- ⑯ 交通系などビックデータが利用できる可能性がある（市民検討会議）

～その他～

- ⑱ 知名度が下がらないよう引き続きプロモーションを実施する必要がある（市民検討会議）

観光振興プランⅢの取り組み案

（1）多様な情報発信媒体を活用した情報発信・・・①⑮⑱

ホームページや各種SNSなどを活用し、手持ちの端末を利用してリアルタイムで手軽に観光やイベントの情報が入手できるよう情報発信の充実。また、悪天候時や冬季閉鎖時なども景観をバーチャル体験できるような観光情報の発信
テレビやラジオ、新聞、雑誌といった観光イメージやブランド価値を高める様々な媒体を通じての情報発信の充実

（2）誘致宣伝活動の実施・・・⑪⑫⑱

求められる観光メニューを調査し、観光ニーズを捉えた効果的なプロモーション活動の推進
東北新幹線沿線や北海道新幹線延伸予定沿線自治体での誘客促進のためのプロモーションの実施
旅行代理店や交通事業者、各種スポーツ団体などへの効果的な宣伝誘致活動の推進
北海道新幹線延伸を見据え、ニセコエリアに滞在するインバウンドの誘致促進のための観光PRの強化

（3）観光関連統計の調査及び活用・・・⑮⑱

市内観光施設等でのアンケート調査により観光ニーズを捉え、観光関連施設や宿泊施設の入込数イベントや行事等の入込数の調査、各種データによる観光客等の動向を把握するとともに、観光関連統計データを公表する。

3 観光客受入体制の充実

観光振興プランⅡの取り組み

ア 受入体制の充実

- ・きじひき高原パノラマ展望台を核とした観光メニューの充実
きじひき高原パノラマ展望台を起点とした観光メニューや、駅周辺で朝夕、積雪時など普段では体験できない魅力ある観光メニューの充実
- ・トラピスト修道院を核とした観光メニューの充実
ウォーク事業やライトアップ事業、各施設内覧事業など、トラピスト修道院周辺の景観を活用した観光メニューの充実
- ・その他観光施設等の維持管理
七重浜海水浴場の開設、さわやかトイレ（渡島当別駅、トラピスト修道院）の維持管理、観光施設の環境美化

イ 観光メニューの充実

- ・ニューツーリズムの振興
北斗市ならではの観光型体験、産業観光、食、景観、健康、温泉など様々な観光資源を活用した着地型の滞在プログラムの造成、普及促進
- ・修学旅行向け体験メニューの充実
体験メニューの受入先と連携した修学旅行向け体験メニューの充実

ウ 観光を支える人材育成の充実

- ・観光協会の体制強化
地域資源を活用した体験・交流型旅行商品の企画・販売など収益事業による自立化の促進
- ・観光マネージャーの育成
旅行業をマネジメントする旅行業務取扱管理者の確保
- ・観光情報の共有化
観光協会の事業を通じた地域における幅広い産業の連携や交流の促進

エ 誰にもやさしい観光地づくり

- ・観光パンフレットや、観光協会のホームページでの多言語表記の充実
増加する外国人観光客を受け入れるために、観光パンフレットやホームページでの多言語表記の充実
- ・外国人観光客向けの観光メニューの充実
新函館北斗駅、北斗桜回廊などで外国人観光客の誘致に向けた観光メニューの充実
- ・視覚的にわかりやすい案内板・標識整備の推進
ピクトグラムといった文字以外のシンプルな視覚記号など全ての人が分かりやすい案内板・標識整備の推進
- ・外国人観光客への会話ツールの活用促進
外国人観光客が気軽に市内飲食店などに立ち寄れるよう指差し英会話シートの活用促進

オ 観光ホスピタリティの向上

- ・観光ガイドの育成
歴史や文化、食、景観などを活用した観光ガイドの人材確保、育成
- ・接遇研修等の実施
市内事業者や市民を対象とした接遇研修の実施
- ・新函館北斗駅のホスピタリティ向上
南北海道の玄関口として国内外の観光客をお出迎えするための施設の維持管理の実施
- ・観光振興に尽力した人や団体などの表彰
市功労者表彰による観光振興に尽力した人や団体などの表彰

カ 観光案内機能の充実

- ・観光案内所の人材育成
観光案内所の多言語対応や様々な業務を計画的に処理するため、研修等を通じた人材の育成
- ・観光交流センターの機能充実
南北海道エリアへの玄関口として、観光交流センターの拠点機能を生かした観光客の利便性を充実、観光情報の提供
- ・J N T O認定外国人案内所の情報機能の充実
外国人観光客が不自由を感じることのないよう多言語対応など観光機能の充実

見直しの考え方について

各会議で得られた以下の意見を参考に、観光客目線を重視し、観光ニーズに対応した適切な情報を提供するため、研修会を開催するなどスキルアップに取り組む。

新幹線利用客が多く見込まれることから観光案内所を核とした観光客の受入環境整備に努め、誰にでもわかりやすく親しみやすい観光地づくりの取り組みを進める。

～体験型関係～

- ④ インバウンドは収穫体験やそば打ち体験などに興味があるのでは。（策定委員会）
- ⑥ 即日対応できる北斗市の観光メニューや情報の提供について（市民検討会議）
- ⑦ 農業体験は潜在的な希望者が多い（市民検討会議）

～新函館北斗駅周辺関係～

- ⑧ 新函館北斗駅交通機能の拠点。レンタカーなど取り組むべき（策定委員会）

～新幹線・交通関係～

- ⑫ ニセコ方面のインバウンドについては、新函館北斗駅から本州へ行っている（市民検討会議）
- ⑬ 二次交通については残してほしい（市民検討会議）

～デジタル関係～

- ⑭ 観光DXに関する取り組みの検討（策定委員会）

～その他～

- ⑳ 環境にやさしい内容の取入れ（市民検討会議）
- ㉑ 観光客を北斗市に降ろす仕組みを検討する必要がある（市民検討会議）

観光振興プランⅢの取り組み案

（1）受入体制の充実・・・④⑦⑫

観光ニーズ捉えた観光メニューの充実
各観光施設を快適に使用してもらうための、施設維持及び環境美化

（2）北斗らしい体験型観光の推進・・・④⑥⑦⑫⑱

当市を代表する産業の一つである農業や漁業を体験し、実際に味わうことができる体験型メニューやきじひき高原や八郎沼公園など豊かな自然を感じながら参加できるアウトドアツーリズムなどの体験型メニューの開発・推進

（3）観光を支える人材育成の充実・・・⑥⑫

観光協会の体制を強化するため、地域資源を活用した体験・交流型旅行商品の企画・販売など収益事業による自立化の促進や、市・北斗市観光協会・北斗市商工会など観光関連団体との情報連携の強化による観光振興や交流の推進

（4）誰にもやさしい観光地づくり・・・④

誰にでもわかりやすく、外国人観光客でも不自由を感じないような案内看板やパンフレットなどの多言語表記化を検討し、ピクトグラムといった文字ではなくシンプルな視覚記号など全ての人が分かりやすい視覚的にわかりやすい標記を推進
外国人に好まれる体験型などの観光メニューの開発・推進

（5）観光ホスピタリティの向上・・・④⑥⑫

歴史や文化、食、景観などを活用した観光ガイドの育成、人材確保を推進するとともに市内事業者や市民を対象とした接遇研修会の開催や観光教育を推進
南北海道の玄関口として観光客をお出迎えするため、観光交流センター施設の維持管理の実施によるホスピタリティの向上

（6）観光案内機能の充実・・・⑥⑫⑱

観光交流センターの拠点機能を生かした観光客の利便性の充実や観光情報提供の実施
外国人観光客が不自由を感じないよう、観光案内所などでの多言語対応に関する翻訳ツールなどの推進

（7）既存交通の活用・・・⑧⑬⑭

二次交通の確保や交通事業者（バス、タクシー、レンタカーなど）と協力した観光メニューの開発・販売
各交通事業者の時刻表や問い合わせ窓口、駐車場情報などの情報発信

4 多様な交流の推進

観光振興プランⅡの取り組み

ア 交流人口の拡大

- ・スポーツ合宿、各種大会の誘致
市内スポーツ施設などを活用し、滞在時間の延長や長期滞在に向けた取組の推進
- ・合宿でのトップアスリートによる技術指導会の実施
スポーツ合宿等で滞在している実業団を中心としたトップアスリートからの技術指導の実施
- ・映画やドラマ、コマーシャル等のロケーション誘致
自然景観などを活用した映画やドラマなどのロケ撮影に対する支援

イ 様々な連携による観光地づくり

- ・東京北斗会など本市に縁のある方々への観光情報の提供
本市に縁のある方々と連携した全国への情報発信
- ・北海道・東北新幹線沿線自治体等との都市間交流
新幹線で繋がる各自治体と観光という分野における都市間交流の推進

見直しの考え方について

各会議で得られた以下の意見を参考に、当市の魅力を広く周知するため、観光プロモーションの強化推進することで交流人口の拡大への取り組みを推進する。

スポーツ合宿については、目標宿泊数5,000泊を維持しつつ、消費活動の増加が見込まれるトップチームや実業団の誘致を行い、スポーツ振興に寄与するため技術指導を受ける機会を設けることを推進する。

北海道新幹線延伸を見据え、沿線自治体と連携することで都市間交流の推進を図る。

～新幹線・交通関係～

- ⑪ 北海道新幹線延伸を見据えた取り組みの準備（策定委員会）

～その他～

- ⑱ 知名度が下がらないよう引き続きプロモーションを実施する必要がある（市民検討会議）
- ⑲ 周辺市町をつなぎ、道南をつなぐ取り組みも必要（市民検討会議）

観光振興プランⅢの取り組み案

（１）交流人口の拡大・・・⑱

スポーツ団体の市内における滞在時間の延長や長期滞在に向けた取り組みのため、トップチームや実業団、強豪校などへのスポーツ合宿の誘致を行い、トップアスリートから技術指導を受けることができるスポーツ教室等の実施を推進
映画やドラマ、CMなどのロケ地勧誘や撮影支援（フィルムコミッション）

（２）連携による交流の推進・・・⑲⑱⑲

ふるさと親善大使などの当市とゆかりのある方々へ向けた観光情報の提供
東北新幹線沿線や北海道新幹線延伸予定沿線自治体などの新幹線で繋がる各自治体と観光という分野における都市間交流の推進および連携

5 広域観光の推進

観光振興プランⅡの取り組み

ア 周辺自治体との連携

- ・新函館北斗駅・北斗市観光交流センターの活用
みなみ北海道の玄関口である「新函館北斗駅・北斗市観光交流センター」の活用促進
- ・定住自立圏の形成に向けた取り組み
渡島檜山管内各市町と協働した、観光PRイベント、プロモーション、観光メニュー開発の推進
- ・広域連携による宣伝誘致キャンペーン
みなみ北海道の各自治体と連携した宣伝誘致キャンペーンの推進
- ・広域的視点による周遊観光ルートの構築
周辺自治体や新幹線沿線自治体などと連携し、観光資源を結びつけた広域的視点による周遊観光ルートの構築

見直しの考え方について

各会議で得られた以下の意見を参考に、国際観光都市である函館市をはじめ、大沼国定公園を有する七飯町などの近隣自治体や観光協会などと連携し、広域での観光周遊ルートといった旅行商品づくりを推進する。

北海道新幹線延伸を見据え、沿線自治体と連携してのプロモーション活動や周遊観光ルートの構築への取り組みを進める。

～新函館北斗駅周辺関係～

- ⑨ 新函館北斗駅周辺の賑わいも重要な観光振興（策定委員会）
- ⑩ 新函館北斗駅周辺の地域活性化は必要（市民検討会議）

～新幹線・交通関係～

- ⑪ 北海道新幹線延伸を見据えた取り組みの準備（策定委員会）

～その他～

- ⑬ 知名度が下がらないよう引き続きプロモーションを実施する必要がある（市民検討会議）
- ⑭ 周辺市町をつなぎ、道南をつなぐ取り組みも必要（市民検討会議）

観光振興プランⅢでの取り組み案

（1）周辺自治体との連携・・・⑨⑩⑪⑬⑭

新函館北斗駅・北斗市観光交流センターを拠点とした活用促進
道南の周辺自治体と連携・協働した、観光PRイベント、プロモーションや観光メニュー開発、交流の推進
周辺自治体や東北新幹線沿線や北海道新幹線延伸予定の沿線自治体などと連携し、各地の観光資源を結びつけた広域的な周遊観光ルートの構築

4 観光エリアについて

(1) 市内の観光エリアについて

市内での観光における滞在時間を延ばす方法としては、複数の観光施設や飲食店を周遊することが有効であると考えられる。当市の観光エリアについては点在しているものの、大きく分けて大野地区、清川・戸切地地区、茂辺地・石別地区の3か所に分けられ、その地区内でも数カ所のエリアに分けられる。

季節やニーズにより、複数の組み合わせによる観光モデルルートや飲食店の情報を発信することにより、観光客の滞在時間を延ばし、消費活動の拡大につながることを予想される。

